

### 3. 市内公共宿泊施設及び一般家庭のダニ分布調査

都市部に於ける住環境の多様化及び衛生状態の向上に伴い、実生活に影響を及ぼす、衛生害虫の実態にも変化が及んでいる。すなわち、従来その主流を占めていた鼠族等が鳴を潜め、その代わりに室内塵（ハウスダスト）を主たる原因とするものが、増加しつつある。ハウスダストとはダニを主体とするものであり、それもチリダニ科ヒユウヒダニ属に限られる。今回我々は、調査対象として公共宿泊施設及び一般家庭を、又その内容についてもハウスダスト（チリダニ科ヒユウヒダニ属）に限らず室内塵に生息するダニを検査対象として調査する機会を得た。その結果、一般家庭及び保健所に苦情相談として持ち込まれた検体により明らかになった事は、ダニ（特にヒユウヒダニ属）に対する感受性の差は、個人によって大きく異なる、ということである。もともとアレルギーという疾患は感受性の差により引き起こされるのであるから、当然と言えば至極当然なのであるが、改めて認識を新たにした次第である。又、検査材料となる細塵の量とそこに実在するダニの数というものも、決して比例する訳でもない。いろいろなファクターがそこに関与するのであろうが、詳細については目下の所不明である。その他、採取場所、建物の構造、日当たりの程度等と、ダニの数及び種の関係等について統計的に解析中である。

又、公共宿泊施設についてはその対象施設が二施設と少ないが、興味深い結果が見られた。すなわち、宿泊利用者や宿泊期間等に大きな差はないと考えられるにもかかわらず、ツメダニ科の出現に大きな差が生じた。これは、二施設の建てられている環境の差によるものと考えられる。